

目 次

刊行のことば 1

第1章 学校における実践的研究

第1節 教育実践と教育研究	11
1 教育研究の必要性	11
2 教育研究とは	12
3 教育研究の方法	12
4 教育研究を推し進めるもの	12
(1) 深い愛情と豊かな構想力と確かな技術 (2) 共同研究におけるチームワーク	
第2節 実践的研究のとらえ方	15
I 実践的研究とは	15
II 実践的研究の必要条件	16
1 多様性を踏まえた洞察と価値の吟味	16
2 「一般性・法則性」と「個別性」の追究	17
3 倫理観と普遍的な愛に根ざして	17
III 実践的研究の構想	17
第3節 実践的研究の過程	20
I 研究課題をどう設定するか	20
1 研究課題設定の意義	20
2 研究課題設定の手順	20
(1) 問題を発見する (2) 問題を焦点化する	
(3) 研究課題を設定する	
II 研究推進計画を立てる	24
1 研究推進計画の意義	24

2	研究推進計画立案の手順	24
	(1) 基本的な手順	
	(2) 複数年に及ぶ場合の研究推進計画立案の留意点	
III	研究方法の特性	26
1	仮説を立て検証する場合	26
2	事実に関するデータを収集し、分析・解釈する場合	29
IV	具体的に研究を進める	30
1	仮説を立て検証する場合	31
	(1) 研究の内容と方法の構想	
	(2) 研究主題の設定	
	(3) 研究目標の設定	
	(4) 研究仮説（見通し）の設定	
	(5) 検証計画の立案	
	(6) 検証のための実践	
	(7) 研究結果の処理と考察	
2	事実に関するデータを収集し、分析・解釈する場合	41
	(1) 問題の選定	
	(2) 研究目的の確認と研究主題の設定	
	(3) データの収集とその留意点	
	(4) データの整理	
	(5) データの分析・解釈	
	(6) 結果のまとめ	
V	研究の過程に応じた資料収集と研究技法の選定	44
1	調査・資料収集	44
	(1) 調査・資料収集の意義	
	(2) 調査・資料収集の視点	
	(3) 調査・資料収集上の留意点	
2	研究技法の選定	45
VI	成果と課題をまとめ、実践にどう生かしていくか	46
1	研究のまとめ	46
	(1) 研究のまとめの意義	
	(2) 研究のまとめの視点	
2	研究の評価	46
	(1) 研究過程における評価の観点	
	(2) 研究過程における評価の記録	
3	研究の発展	48
	(1) 研究成果を実践に生かし、成果や課題の深化・拡充を図る	
	(2) 研究成果を実践に生かすための留意点	
	(3) 研究成果を実践に生かす方法	

4	研究の累積と発展課題	49
(1)	研究の累積の必要性	(2) 発展課題の把握
5	論文の作成	50
(1)	論文作成の重要性	(2) 論文の備えるべき条件
(3)	論文の構想と叙述上の留意点	

第2章 実践的研究の具体的な進め方

第1節	授業研究	55
I	授業研究の意義	55
II	授業研究の手順	55
1	研究の内容と方法の構想	56
(1)	各教科等の目指す子供の設定	(2) 手だての構想
(3)	研究主題の設定	(4) 研究目標の設定
(5)	研究仮説の設定	
2	検証計画の立案	62
(1)	検証の観点の明確化	(2) 検証の場面・方法の明確化
(3)	処理と解釈の方法の明確化	
3	授業設計	66
(1)	授業設計の意義	(2) 子供理解
(3)	単元の目標分析と評価規準の設定	(4) 単元の指導計画の作成
(5)	本時案の作成	
4	授業実施と授業記録	82
(1)	授業記録の意義	(2) 授業記録の方法
5	授業評価と研究結果の処理	84
(1)	授業評価の意義	(2) 授業評価から授業改善へ
(3)	授業評価の技法	(4) 研究結果の処理
(5)	研究結果の考察方法	
6	研究のまとめ	90

第2節 教材開発研究	91
I 教材開発の意義と視点	91
1 教材開発の意義	91
2 教材開発の視点	92
II 教材の特性と教材開発研究上の留意点	92
1 直接経験を促す教材	92
2 道具による経験を促す教材	93
3 シンボル操作による経験を促す教材	94
III 教材開発研究の手順	96
1 研究の内容と方法の構想	96
(1) 研究主題の設定	(2) 研究目標の設定
(3) 教材開発の構想	(4) 研究仮説の設定
2 検証計画の立案	100
3 教材開発の推進	101
4 授業実践（教材の有効性の検証）	101
5 検証結果の処理と考察	101
6 開発した教材の改良	102
7 研究のまとめ	102
第3節 事例研究	103
I 事例研究の意義	103
II 教育における事例研究	103
III 事例研究の進め方	104
1 問題の設定	104
(1) 問題の発見と対象の選定	(2) 問題の把握
2 資料の収集	105
(1) 資料の種類	(2) 資料の収集方法
3 問題の理解	107

	(1) 資料の解釈	(2) 問題の理解	
4	指導方針の決定		110
5	指導の実践		111
6	研究のまとめ		112
	(1) 研究の成果	(2) 今後の課題	
IV	事例研究会の開催		113
V	事例研究レポートのまとめ方		113
第4節	調査研究		116
I	調査研究の意義		116
II	調査研究の手順		117
1	研究目標の設定		117
2	研究仮説の設定		118
3	調査内容・対象・方法の決定		118
4	調査問題の作成		119
5	処理方針の決定		119
6	プリテストの実施		119
7	調査の実施		120
8	調査結果の処理		120
9	研究のまとめ		120
10	研究の活用		120
III	統計的調査と事例的調査の方法		120
1	統計的調査の方法		121
	(1) 調査対象範囲の決定	(2) 調査方法(技法)の決定	
	(3) 標本抽出の設計	(4) 調査用紙の作成	
	(5) データの整理(集計)	(6) 分析	
2	事例的調査の方法		133
	(1) 対象事例の選定	(2) 調査の技法(データ収集方法)	

第3章 実践的研究を支える技法等

第1節 文献とコンピュータの活用	137
I 文献の活用	137
1 文献活用の意義	137
2 活用したい文献の種類	138
(1) 基本的な用語や概念、研究の進め方に関して	
(2) 研究主題、研究内容・方法などに関して	
3 文献の探索	138
(1) 文献探索の方法	
(2) 図書館等の利用	
II メディアとしてのコンピュータの活用	140
1 教育情報の収集	140
2 データの集計・処理	141
3 研究成果等の表現・発信	141
(1) プレゼンテーション機能	
(2) 発信	
4 コンピュータ活用上の留意点	142
(1) 著作権の保護	
(2) プライバシーの保護	
5 教育研究におけるコンピュータ活用の過信	143
第2節 研究技法の活用	144
I 情報の収集と分析・検討の技法	144
1 ブレーンストーミング法	144
2 KJ法	145
II 教育・心理の検査技法	147
1 知能検査	147
2 学力検査	147
3 性格検査	147

III	教育統計法	148
1	教育統計法の導入場面と役割	148
2	教育統計を適用する際の留意点	148
3	集団の特徴を表現する方法	149
	(1) 調査や検査結果の数量化の考え方と方法 (2) 統計図表の作成と留意点	
4	子供の変容等を的確に判断するための教育統計法	151
	(1) 基礎的な統計値の求め方 (2) 様々な検定の方法	
IV	S-P表の作成と活用	156
1	S-P表の作成	156
2	S-P表の分析と活用	157
	(1) 全体的な把握 (2) 個別的な把握	
	(3) S-P表の時系列的活用	

第4章 実践的研究の具体的展開

第1節	教科指導に関する研究	159
I	問題解決的な学習に関する指導	159
	実践例1 (授業研究) 一小4社会	159
II	体験的な学習を取り入れた指導	166
	実践例2 (授業研究) 一小4国語	166
	実践例3 (授業研究) 一小5図画工作	172
	実践例4 (教材開発研究) 一中1理科	180
III	個に応じた指導	188
	実践例5 (授業研究) 一中3数学	188
	実践例6 (教材開発研究) 一中1外国語	195
	実践例7 (授業研究・事例研究) 一中2作業学習(特殊学級)	202
第2節	心の教育に関する研究	210
I	道徳	210

実践例 8 (授業研究) ー小 6 道徳ー	210
II 生徒指導	219
実践例 9 (事例研究) ー小 6 生徒指導ー	219
第 3 節 生き方についての指導に関する研究	226
I 進路指導	226
実践例10 (授業研究) ー中 1 学級活動ー	226
II 学年・学級づくり	231
実践例11 (授業研究) ー小 3 学級活動ー	231
III 健康教育に関するもの	236
実践例12 (授業研究) ー中 1 特別活動ー	236
第 4 節 総合的な学習の時間を推進するための研究の在り方	244
I 「総合的な学習の時間」のねらい	244
1 特色ある教育課程の編成	244
(1) 教育課程における位置	(2) 「総合的な学習の時間」の特徴
2 特色ある教育活動の展開	246
II 「総合的な学習の時間」の研究の視点と方法	247
1 構想上の課題	248
(1) 自校のねらいに関する課題	(2) 教育課程に関する課題
2 実践上の課題	249
III 先進校の取組	250
1 資質や能力をどうとらえたか	250
2 子供にとって「切実な課題」となるようにするために	251
3 生き方を考えることができるように	253
4 子供を伸ばす評価の工夫について	255
あとがき	259
執筆者・改訂委員	260